

Consortium of Biological Sciences 2017 参加報告

大塚 剛司[✉]

和歌山県立医科大学 医学部 生理学第二講座 (現 岐阜大学 応用生物科学部 動物生産管理学研究室)

冬の寒さがまた一段と深まる中、神戸ポートアイランドは研究者たちの熱気に包まれていました。2017年12月6日から9日にかけて神戸で行われた Consortium of Biological Science (ConBio) 2017 に参加してまいりましたので、報告をさせていただきます。

本大会は日本分子生物学会と日本生化学会の合同年次大会になりますが、37学会/団体の参画により、1万人を超える(約10,200名)参加人数を誇る大きな大会でした。日本時間生物学会もこの大会に参画しており、オーガナイザーとして深田吉孝先生、八木田和弘先生がシンポジウムを企画されておりました(残念ながら私の発表と同じ時間に開催されていたため、拝聴することはできませんでしたが・・・)。そして国内外から様々な分野の著名な研究者の方々が多く参加されており、普段なかなか拝聴する機会のない研究内容にも触れることができました。特に、PD-1研究の本庶佑先生やiPS細胞の山中伸弥先生、オートファジーの大隅良典先生といった、日本のトップ研究者やノーベル賞受賞者の方々のプレナリーレクチャーは、若手研究者の研究に対するモチベーションを強く刺激する内容で大変素晴らしいものでした。また、一般口頭発表及びポスター発表に加えて、33のシンポジウムや129のワークショップ、大会中毎日開催された企業ランチョンセミナーもあり、大会の規模と内容の充実さに驚嘆いたしました。このようにかなりの数の企画が用意されていたことから、発表を聴くことができなかつた方々のために、ConBio 2017のホームページでは、幾つかの企画について数ヶ月間オンデマンドで配信されておりました。これは基礎系の学会では珍しく、企画の多い今回の様な規模の大会においては非常に有効な試みではないかと感じました。

今回のConBio 2017では、私も研究内容を発表する機会をいただき、大会3日目にポスター発表、4日目に口頭発表を行いました。私は時計遺伝子の機能異常による情動行動障害に関する研究を発表し、多くの

方々から貴重な意見やアドバイス、また積極的なディスカッションを行うことができました。特に、たまたま隣のポスターで発表をされていたOISTの留学生とのディスカッションでは、自分の英語力の無さを実感しながらも、お互いの研究についての意見交換を英語で行うことができ、自分にとってかなり有意義な時間になりました。口頭発表に関しましては、大会最終日後半に行われたセッションの発表であったため人数も少なく、さらに私はセッション最後の発表でしたので、お聞きいただけたのは十数名の方だけでした・・・。しかし、ポスター発表で質問された方も居られ、自分の研究に耳を傾けてくださったことは、これからの研究の励みになりました。

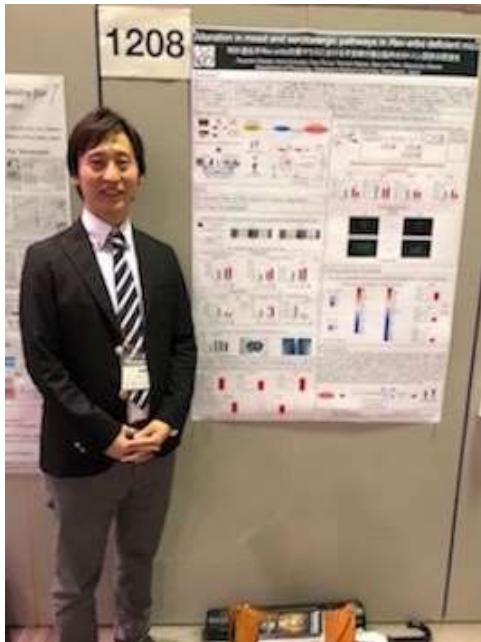
ここで少し神戸について紹介させていただきます。ConBio 2017が開催された神戸の街は「世界で最も住みやすい都市」トップ10にランクインしたことがあるほど、世界的にも暮らしやすい街です。また、有名な神戸牛や中華街を始めB級グルメも豊富で、美味しいものが数多く存在することに加えて観光スポットも多く、生田神社や六甲山、異人館など、とても数日では回り切れないほどです。その中でも、期間限定の特別な催し物がConBio 2017中に開催されておりました。それは「神戸ルミナリエ」です。1995年に起こった阪神・淡路大震災の犠牲者の方々への鎮魂の意と復興への期待を込めて、神戸ルミナリエは毎年12月に開催されている光の芸術作品展示です。今回、私は残念ながら観賞することは叶わなかったのですが、毎年変わる光の作品はどれも幻想的で、まるで夢の中にでもいる様な気持ちになります。光と密接に関わる体内時計の研究に携わる私にとって、今後も神戸ルミナリエは続けていって欲しいですし、この様な取り組みが震災の記憶を後世に伝えるとともに、我々に素晴らしい光の作品を届けてくれることを願います。

ConBio 2017は大盛況の中幕を閉じましたが、本大会は様々な分野の学会/団体の研究者が一堂に会して、

✉ t_otsuka@gifu-u.ac.jp

多角的な視点から議論を行うことが出来た点で非常に有意義であると感じました。こうした異分野間での議論が、今後の革新的な研究の発展に繋がるのではないかと思います。個人的には、普段私が参加させていただいている日本時間生物学会や、その他の学会とは異なる雰囲気を楽しむことができ、今後の研究活動の

励みになりました。最後になりますが、ConBio 2017の参加を勧めてくださった筆者の所属研究室の向阪彰先生、ならびに本大会参加記の執筆機会を与えてくださった編集委員の池上啓介先生に心より感謝を申し上げます。



ポスター発表をする筆者



日本時間生物学会員の皆様と
(左から吉種さん、田丸さん、筆者)



神戸ルミナリエの作品 (2015年のもの)